

(女性獣医師支援対策検討委員会報告書抜粋：全文ポータルサイトに掲載)

女性獣医師がより活躍できる環境づくりの推進

—獣医師全体のワーク・ライフ・バランス改善のために—

平成 29 年 6 月

はじめに

女性獣医師だけに着目するのではなく、すべての獣医師が活躍しやすい環境づくりをめざそう、というコンセプトで議論が進められ、必要と考えられる対策が提案された。女性の活躍推進が経済戦略の中核に位置づけられ、女性活躍推進法が施行されるなど、社会全体で取り組みが進められている。日本獣医師会においても、女性獣医師の活躍推進を図ることを目的として、平成 25 年 9 月に「女性獣医師支援特別委員会」を設置し、実態調査、キャリアアップや就業継続のための方策の検討等を行い、その結果を平成 27 年 5 月に報告書「女性獣医師がより活躍できる環境づくりに向けて — 獣医師全体のワーク・ライフ・バランス改善のために —」にまとめた。この特別委員会では、女性獣医師だけに着目するのではなく、すべての獣医師が活躍しやすい環境づくりをめざそう、というコンセプトで議論が進められ、必要と考えられる対策が提案された。

提案された対策を具体的に実現するために、平成 27 年 11 月に、職域総合部会の個別委員会として「女性獣医師支援対策検討委員会」を設置し、第 2 回委員会を平成 28 年 8 月に、第 3 回委員会を平成 29 年 4 月に開催して議論を重ね、農林水産省補助事業「獣医療提供体制整備推進総合対策事業」を活用して対策を進めた。

本報告書は、女性獣医師支援特別委員会が提案した対策の具体的な進捗状況と残された課題等の報告に加え、新たに必要と考えられた対策について提案するものである。

おわりに

女性獣医師の増加にともなって日本獣医師会の女性会員数が増加しているわけではなく、女性獣医師の加入率は依然として低い。このことにも、固定

的性別役割分担意識(男性の院長が加入していればよろしい、といった慣習など)が影響しているのかもしれない。この固定的性別役割分担意識は、男性だけではなく、女性の間にも世代によって異なった温度差で存在しているようであり、平成27年末に決定された「第4次男女共同参画基本計画」でも「男性中心型労働慣行の変革と女性の活躍」として意識改革の必要性を最初に掲げていることを紹介しておきたい。

大学卒業時の就職先は必ず把握されているが、いったん離職した卒業生のその後の動向を把握している大学は少なく、日本獣医師会における対応が期待されている。そのためには、学生会員の会費負担をさらに軽減すること等により、女子学生に限らず学生全体の加入率を上げる工夫が必要であると考ええる。

女性の出産・育児だけでなく、転勤、介護等の事情によって、休会、退会を希望する獣医師が、獣医師会から離れてしまうことのないように、再入会や地方獣医師会間の異動等の手続きを簡素化しておくことも大切だと考える。

先進的な取り組みを実践している地方獣医師会もあるため、今後積極的に紹介していくこととともに、日本獣医師会での検討を求められている事項については担当の委員会において対応してもらおうよう、委員会としても求めていきたい。

現状に悩みを抱えた獣医師や新たな仕事を求める獣医師が気軽に訪れることのできる相談窓口や最も必要とされている代替獣医師の確保円滑化のための人材バンクの検討をはじめ、残されている課題も少なくない。今後、日本獣医師会においてこれらを着実に進めていくことと併せ、「女性獣医師が働きやすい環境はすべての獣医師が働きやすい環境である」ことを、あらためて関係者全員で認識し、獣医師全体のワーク・ライフ・バランス改善、「働き方改革」のために、これまでのやりかたにとらわれない仕事、働き方の見直しをそれぞれの職場で進めていただくことも提案したい。

職域総合部会 個別委員会 女性獣医師支援対策検討委員会 委員名簿

(平成27～28 年度)

委員長

栗本まさ子 日本獣医師会特任理事（日本乳業技術協会代表理事）

副委員長

酒井淳一 山形県獣医師会理事（岩手大学農学部附属 FAMS 客員教授）

市川陽一郎 千葉県獣医師会副会長（いちかわ動物病院院長）

梶木富美恵 神奈川県保健福祉局生活衛生部長

鎌田健義 山梨県獣医師会理事（前全国家畜衛生職員会会長・山梨県農政部畜産課長）

白戸綾子 独立行政法人家畜改良センター茨城牧場長

田中公子 動物検疫所神戸支所長

田中美貴 埼玉県農林部畜産安全課家畜衛生担当主幹

額田聡子 千葉県農業共済組合連合会西部家畜診療所係長

早矢仕裕子 前全国公衆衛生獣医師協議会事務局長
東京都動物愛護相談センター多摩支所監視第二区担当課長代理

福原美千加 みかん動物病院院長